

(文部科学省平成26年度委託事業)
「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

一 初任者研修の抜本的改革 一

報 告 書

平成27年3月

北海道教育委員会

目 次

1	実施テーマ	1
2	取組の目的・内容・方法	1
3	ジョブシャドーイングに対する北海道の考え方	4
4	実践推進校、調査協力校の取組例	10
	・指導体制等	
	・実施計画	
	・月別計画書	
	・実施記録票	
	・リフレクションシートの概要（1学期・2学期）	
5	より効果的な取り組み方、指導の在り方（特色ある取組）	33
6	推進協議会	68
7	まとめ	79
	・アンケート（初任者指導教諭・初任者各々の立場から感じた成果と課題）	
	・ジョブシャドーイングによる効果と実施上の留意点	

1 実施テーマ

ジョブシャドーイングの取組による初任者研修の抜本的改革

2 取組の目的

今後10年で約3分の1の教員が入れ替わる大量退職・大量採用期を迎える中、若手教員の資質能力の向上、先輩教員からの教育技術等の継承は、喫緊の課題である。

こうした中、初任者の配置については、人事異動の後補充の一環として扱う従前の方式を改め、優秀な指導者の存在や学校全体での指導体制の整備等を前提とした取組を推進する必要がある。

このような現状を踏まえ、教科指導はもとより、学級経営や保護者とのコミュニケーションに優れ、かつ後進の育成に情熱を持つ教員を初任者指導教諭として、その指導方法や仕事術を初任者が徹底的に習得する「ジョブシャドーイング」を実施するとともに、その手法を取り入れた実践例を普及・発信することにより、学校における継続的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図るための取組を調査研究する。

3 事業の具体的内容等

- (1) 「学校力向上に関する総合実践事業実施要綱」(平成25年3月28日教育長決定)第2の1の実践指定校のうち、次の学校を実践推進校と位置付けるとともに、調査協力校を指定し、連携しながら事業を実施する。

実践推進校	北広島市立大曲小学校
	旭川市立大有小学校
	名寄市立名寄小学校
	大樹町立大樹小学校
	網走市立網走小学校
調査協力校	北見市立三輪小学校
	倶知安町立北陽小学校
	釧路市立芦野小学校
	旭川市立愛宕東小学校
	室蘭市立旭ヶ丘小学校

- (2) 実践推進校、調査協力校は、次の取組を行った。

- ① 初任者は、1年間、原則として学級担任や単独授業は持たないこととし、毎日指導教員等とチームティーチング(TT)を組むなど、授業内外の各種業務の総体を常に間近で観察し、頻繁に省察の機会を持つなど、指導教員の指導方法等について総合的・徹底的に研修する。
- ② 初任者は、初任段階教員研修における学校研修計画にシャドーイングを位置

付け、説明・発問・指示、ノート指導、発声方法、机間巡視、教材研究、指導案・週案づくり、学級通信づくり、通知表の所見欄の記入、校務の効率的処理、家庭訪問や保護者対応、地域との連携等、教員として必要なことの全てについて計画的に研修する。

- ③ 初任者は、毎日の省察のための記録（リフレクションシート）を作成し、2年目からの独立に向けた必要な措置を行う。
- ④ 初任者指導教諭等は、初任者に対して、北海道教育委員会が後援する民間教育研究団体等の教員セミナーへの積極的な参加を促進する。
- ⑤ 初任者指導教諭等は、優れた教育書を初任者に紹介し、自己の実践と比較分析させるなど、書籍や文献などを有効に活用した指導を行う。
- ⑥ 初任者指導教諭等は、初任者に対し、良い実践、悪い実践を具体的に示すなど、差を意識させる指導を行う。
- ⑦ 平成25年度文部科学省委託事業「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」の成果を参考として、研修内容、省察、リフレクションシートなどを工夫する。

4 取組の実施方法

実践推進校、調査協力校は取組を行うため、次の方法を活用する。

(1) ジョブシャドーイングの促進

教科指導はもとより、学級経営や保護者とのコミュニケーションに優れ、かつ後進の育成に情熱を持つ教員を初任者指導教諭として、その指導方法や仕事術を初任者が徹底的に習得する「ジョブシャドーイング」を初任者研修として年間を通じて実施する。

(2) 初任者研修の抜本的改革に関する調査研究事業推進協議会

実践推進校（学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校）及び調査協力校を集めた「推進協議会」を年2回開催し、共通の留意事項等を整理するとともに、外部講師のアドバイスを得ながら、協議を通して、各学校のジョブシャドーイングの取組状況等を情報共有するとともに、相互学習を促進した。

(3) 初任者研修の抜本的改革に関する調査研究事業報告書作成委員会

調査協力校の初任者指導教諭などにより事業報告書作成委員会を組織し、適宜外部有識者のアドバイスを得ながら、各学校における初任者研修としてのジョブシャドーイングを取り組む上での参考となるような資料収集・作成等を行う。

初任者研修の抜本的改革に関する調査研究事業

ジョブシャドローイングによる初任者育成の効果的な取組

卓越した指導力のある教員が初任者をマンツーマンで指導し、効果的、効率的な研修を実施するとともに、学校における継続的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図る取組を実施する。

基本方針

学校の取組

◆シャドローイングの方法

管理職

- 初任者研修に関わる学校方針の明確化
- 初任者の研修体制の充実を促進

他の教員

- 研修計画に基づき、初任者指導教諭と連携するなどの、初任者に対する組織的な育成・支援

初任者指導教諭

- 初任者に対するマンツーマンによる総合的・徹底的指導
- 研修計画の企画・立案・改善

初任者

- 研修計画に基づき、指導教員の指導方法について総合的・徹底的な研修
- 指導教員を中心とした組織的な体制により教員として必要なこと全てについての計画的な研修

◆シャドローイングの実施内容

- 毎日、初任者指導教諭等とティームティーチング(T・T)を組むなど、授業内外の各種業務の総体を常に間近で観察し、頻繁に省察の機会を持つなど、初任者指導教諭の指導方法を総合的・徹底的に研修
 - 説明・発問・指示、ノート指導、発声方法、机間巡視、教材研究、指導案・週案づくり、学級通信づくり、通知表の所見欄の記入、校務の効率的処理、家庭訪問や保護者対応、地域との連携等、教員として必要な事項

連携

協力

教育局の関わり

- 指導主事による定期的な学校訪問(各学期ごとなど)
 - 協議・指導助言
 - シャドローイングの取組の具体的な内容や課題について
 - 日常授業の参観
 - 初任者指導教諭と初任者とのT・T授業

- ★推進協議会(年2回)
- アドバイザーの指導・助言
- 学校間の実践交流等

実践推進校(5校)

調査協力校(5校)

実施に当たった際の留意点

- ◇初任者に、毎日の省察のためのノートを作らせるなど、2年目の独立に向けた措置
- ◇教育局指導主事による定期的な学校訪問による現地ヒアリング
- ◇教職員、保護者、児童に対するジョブシャドローイングの周知、啓発

最終目標

- ★初任者の資質能力の向上
- ★学校全体で初任者を育成する継続的な校内研修・指導体制の確立

ジョブシャドーイングに対する 北海道の考え方

北海道においても、今後大量退職・大量採用により多くの教員が入れ替わる時期を迎える中、「若手教員の資質向上」「指導技術の継承」が喫緊の課題である。

また、学校では同僚性の低下や研修機会の不足等の問題を抱えており、組織的な人材育成が急務である。

これらの課題に対応するため、同僚性のよさを生かす「学校力」と優れた指導力のある教師の指導技術等の伝承をはかる「教師力」を両輪に、初任者が指導教諭にぴったりと寄り添いながら学ぶジョブシャドーイングを通して、若手の資質向上を目指す北海道モデルの初任者研修体制を構築した。

ジョブシャドーイングは

使命感をもち、自ら向

- ①教職に対する強い情熱
- ②教育の専門性

10年

学校力

若手教員の資質向上を目指し、学校全体の指導体制を整備し、実施する。

5年

システム チーム

1年

仕組み

- ・近隣校連携
- ・年間指導計画

グループ

- ・他学年他学級
- ・専科等シャドーイング

メンター

- ・メンター
- ・縦横の連携

ジョブシャドーイング型

様々な課題→組織対応

使命感

0

組織（チーム）の「安定性」「永続性」と教師力

参考資料：新しい時代の義務教育を創造する（答申）平成17年・
教員のメンタルヘルス対策および効果測定（東京都教職

に対する北海道の考え方

上し続ける教師の育成

家としての確かな力量 ③総合的な人間力

教師力

指導力のある教員が初任者をマンツーマンで指導し、効率的な研修を実施。

人間力

伝承

徒弟関係

- ・人間関係
- ・日常指導サイクル

匠の技

- ・短期間シャドウイングサイクル

型初任者研修プログラム

「人」を育てる→人間性

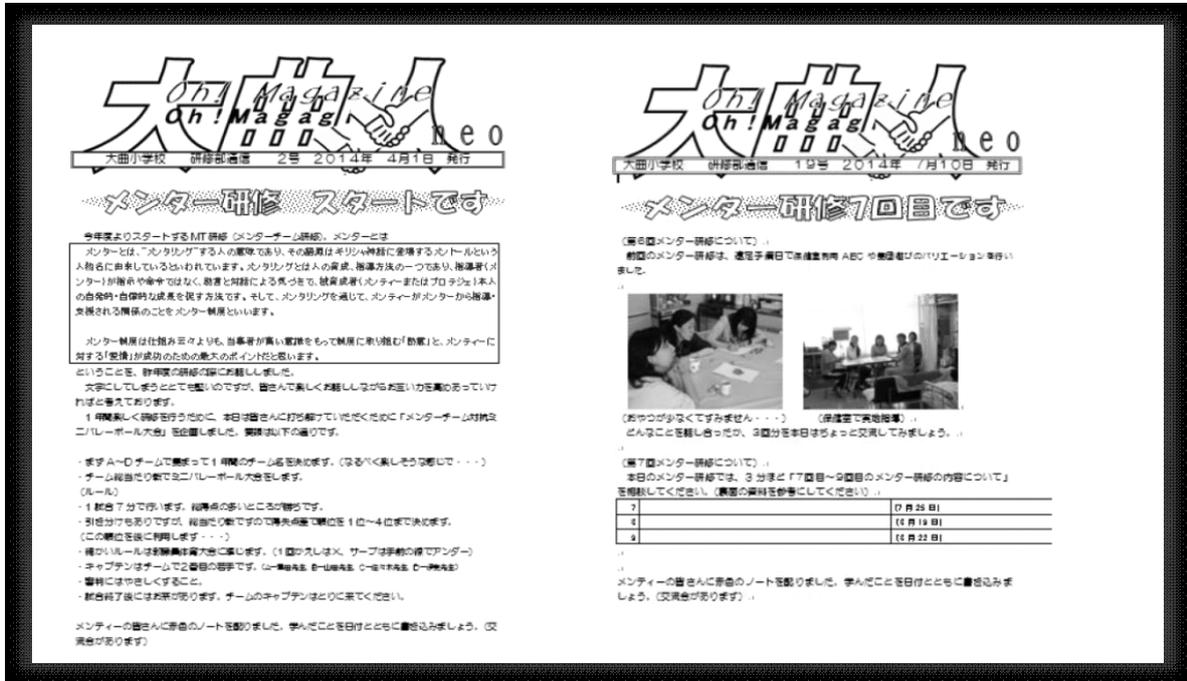
教師観

(伝承型)の「深化」「守破離」のハイブリット

10月26日中央教育審議会
教員互助会、ウェルリンク株式会社)、労働者健康状況調査(厚生労働省)

メンター

新採用・2年目の初任者層であるメンティと、先輩教師であるメンターが共に働き、語り合いながら育成する研修を取り入れている。放課後や長期休業を活用し、3回の実施毎に交流会をもち、計画を作り上げた。メンター通信を発行し、全教職員の底上げを図った。



北広島市立大曲小学校

仕組み

初任段階教員研修である道教委計画研修以外に、市独自の合同初任者研修の年間計画を立て、市内の教員が講師となった研修を行う仕組みを構築した。

日	期日	場所	3ヶ月50分	①	②	③	④	⑤	
①	3月28日(金)	大曲小	6	9:00~9:50 「サリエンション」サインズ (学校情報研修への対応)	(全棟)石川陽一(合同)山田洋一 10:00~10:50 講演「教職員の最初の5日でのびのび指導するのしかた」 (学級事務の進め方)	山田洋一	11:00~11:50 講演「スタートダッシュのための書休み業務」(学級主任の講演)	山田洋一	
②	4月9日(木)	大曲小	6	9:00~9:50 「講師2つのものさしで学級経営を評価する～」 Q-1から講師モデルまで(1)(児童理解の方法、継続的指導料活用上の留意点、学級経営の評価と改善)	横森校長 10:00~10:50 教育長講話 「思い教師に期待されていること」 (教育行政の実情、教職員の期待と義務、教員に列する期待)	教育長	11:00~11:50 講演「初日の指導を体験しよう」(ベテランの横森校長指導)(学年、学級経営の意義・計画)	横森幸恵	
③	5月1日(木)	大曲小	3	13:30~14:20 演習「論理作文交流」 (教科指導の反省)	山田洋一 14:30~15:20 講演「行事指導はどうかあるべきか?」 (学校行事の指導)	石川陽一	15:30~16:20 演習「行事指導 Q&A」 (学校行事の指導)	石川陽一	
④	5月24日(火)	大曲東	3	13:30~14:20 演習「論理作文交流(1)」 (特別活動の反省)	石川陽一 14:30~16:20 講演「見聞交流」(講演「教師の文章術～見聞どく書かへ～」 (通知表の作成)	山田洋一		山田洋一	
⑤	7月4日(金)	双葉小	3	13:30~14:20 授業を振り返って表現させる授業(音楽、合唱) (授業の巻頭と分析、授業研究)	曾羽達子 14:30~15:20 演習「論理作文交流」 (特別活動、教科指導の反省)	石川陽一	15:30~16:20 演習「合唱指導の振り返りQ&A」 (教科指導の反省)	曾羽達子	
⑥	夏休み 7月30日(日)	大曲小	3	9:00~9:50 演習「論理作文交流(特別活動の振り返り、戸惑い)」 (集団指導と個別指導 生徒指導の反省)	石川陽一 10:00~10:50 「生活科・総合的な学習の時間50分のポイント」	横森校長	11:00~11:50 演習「学級通信交流」(講演「教師の文章術～学級通信の作成」) (学級通信の作成)	山田洋一	
								13:00~13:50 演習「自己分析してみよう」(自分史の作成) ※長期目標設定シート記入(学級主任の指導) 2年目 長期目標シート記入 13:00~13:50	

北広島市立大曲小学校

初任者に対するジョブシャドーイングの有効性

教師力

初任者指導教諭の「教師観・指導観」「指導技術・技能」等を、マンツーマン指導により、徹底的指導。様々な指導技術や技能の背景にある「原理原則」「教師観」を一緒に指導。人間性の向上も図る。

匠の技

高い教師力・教師観

優れた指導力をもつ指導教諭のジョブシャドーイングを通して、授業実践をモニタリングするとともに、その指導の背景や意図、さらにはどんな教師観・指導観から出てきたものかを直接学ぶことができた。

1 手本を見る。

指導教諭の授業を参観する。授業中に次のような子供の姿がある。

国語の授業中に小学3年生のA君が音読をしているが、声量が小さく、よく聞き取れない。そこで、指導教諭は次のように指導した。

「A君の音読はもう少し声を大きくすると良い。その為には息をしっかりと吸うのが大切だよ。さあ、息を吸ってごらん。そうしてから声を出すのだよ。」

A君の音読は改善し、A君は向上した。

2 手本の意味を知る。

放課後のリフレクションで、次のような解説を聞く。

まず、A君の声量が小さい事実を見逃してはいけない。(教育者としての使命感)当然、3年生であればどの程度の声量が適正かという理想状態を分かっている必要がある。(人間の成長・発達についての深い理解)そして、必ず向上させるという教師の思いが必要だ。(児童に対する教育的愛情)その為に声量を適正にするための指導事項を知っている必要がある。A君の場合は呼吸を改善する必要があった。頑張っって声を出すのだよという根性論ばかりではいけないよ。(教科などに対する専門的知識)音読ができるようになる喜びがA君の人生を豊かにするのだよ。(広く豊かな教養)

釧路市立芦野小学校

徒弟関係

初任者が指導教諭にぴったりと陰のように寄り添い、シャドーイングしていく上では、互いの信頼関係を気づくことが重要である。この関係が成立する中で、日々のリフレクションにおいて、即時に改善策を検討し、介入・指導を行うことで優れた指導力を持つ教諭から理論に基づいた技能を学びとっていくことができた。

<テーマ5・指導言～朝の会の連絡より>

【朝の連絡・話】

☆ 6月23日(月)

話をした内容	改善後
<p>おはようございます。先生先週の金曜日と木曜日いなかっでしょ。何をしていたかという、旭川市内の他の小学校の授業を見てきました。そこでね、6年2組のみなどと、他の学校の人はどこが違うのかなって研究してたの。一番違うところに気づきました。</p> <p>確かに、姿勢もいいんだ。でも、6の2のみんなの方がいいな、って思ってみてました。手の挙げ方もピツとしていいな、でもみんなの方がいいな。一番違ったのは何かというね、返事と発表の声の大きさです。他の学校にも、クラスに一人二人はもとき君みたいに大きな声の人はいるんだ。でもね、愛宕東小学校の6年2組みたいにクラス全員が大きな声を出せる学級は他にないんだな、と気が付きました。みんなのすばらしさを改めて実感しました。今週もみんなの素晴らしい声を聴かせてください。</p>	<p>先週先生は他の小学校に行ってきました。6年2組のみなどと、他の学校の子の違いに気づきました。最も違うところは、発表や返事の声の大きさ。クラスの中に一人二人は大きな声の人がいました。でも、全員が大きな声を出せるのは愛宕東の6-2だけだったよ。</p> <p>聞いてくれるみんなのために大きい声で話すことが大切なんだよね。全員が他の人を思いやって発表ができるみんなって、すばらしいね。</p>

○反省

- ・視線が全体に向いていなかった
- ・話が長い 端的明瞭に！
- ・声の大きさ 小さい

介入・
指導

技能の伝承

○これから実行すること

- 自分の仕事は、事前に準備しておく
- 大きな声で話す(常に)
- いつも笑顔でいる
- 常に何をすべきか考えて行動する
- 明確な目的をもって動く なぜそうするのか、あとから説明可能
- 積極的に児童と関わる
- 先生に対しても、自分から関わる。積極的に学ぼうとする
- 毎日 目標を明確にしてから活動する
参観する視点を明確にする
- すき間時間を利用して学ぶ
- 来年どようになりたいか理想を描く
- 気になったこと、知りたいと思ったことはなんでも聞く
- 今の3倍 人との関わりを増やす
- とにかく たくさん子どもと遊ぶ、話かける
- どんどん自分にできることを探す
- たくさん失敗する 失敗から学ぶ

旭川市立愛宕東小学校

実践推進校、調査協力校の取組例

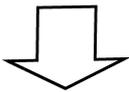
実践指定校、調査協力校は、指導体制等の年間の実施計画を立てるとともに、月別に重点や研修項目を設定した月別計画書を作成した。

ジョブシャドーイングの実施に当たって、初任者は適宜「実施記録票」を記入し、1学期、2学期終了時には、初任者にジョブシャドーイングの取組の自己点検のため、リフレクションシートを作成させることとした。

取組の流れ

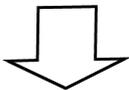
○指導体制等

- ・道教委において、ジョブシャドーイングの指導体制の基本的なパターンと指導内容等を示した。



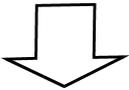
○実施計画

- ・各学校では初任者に対するかかわり方によって3つの指導体制から選択するとともに役割を明確に位置付けた実施計画を作成した。(10校分の実施計画)



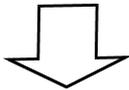
○月別計画表

- ・実施計画に基づき、月別に重点を位置付けた計画表を作成し、研修項目を整理した。(抜粋)



○実施記録票

- ・各学校の日常のジョブシャドーイングの内容等を実施記録票として作成した。(抜粋)



○リフレクションシート

- ・初任者自らがジョブシャドーイングから学んだことや感じたことを、学期ごとに振り返るため、リフレクションシートを作成した。(抜粋)

1 指導体制

指導体制は、次の中から選択する。

類 型	主 な 内 容
A	学級を担任する教諭を初任者指導教諭とする。初任者は副担任とする。
B	・学級を担任する教諭、教務主任、研修主任等を担当する教諭の2名を初任者指導教諭とする。 ・2名の教諭は効果的・効率的に実施できるよう役割分担などを工夫する。
C	・教務主任、研究主任等を担当する教諭を初任者指導教諭とする。 ・初任者は初任者指導教諭の指示、指導の下に他の教諭等のシャドーイングも行う。
D	その他

2 指導内容・方法等

- (1) 初任者は1年間、原則として学級担任や単独授業は持たないこととし、毎日指導教員等とチームティーチング（TT）を組むなど、授業内外の各種業務の総体を常に間近で観察し、頻繁に省察の機会を持つなどして、指導教員の指導方法を総合的・徹底的に研修させること。
- (2) シャドーイングについては、初任段階教員研修における学校研修計画に位置付けることとし、説明・発問・指示、ノート指導、発声方法、机間巡視、教材研究、指導案・週案づくり、学級通信づくり、通知表の所見欄の記入、校務の効率的処理、家庭訪問や保護者対応、地域との連携等、教員として必要なことの全てについて内容を盛り込み、計画的に実施すること。
- (3) 初任者には、毎日の省察のための記録（リフレクションシート）を作らせるなど、2年目からの独立に向けた必要な措置を適宜講じること。
- (4) 平成25年度文部科学省委託事業「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」の成果を参考にし、研修内容、省察、リフレクションシートなどを工夫すること。
- (5) 初任者指導教諭等は、北海道教育委員会が後援する民間教育研究団体等の教員セミナーへの参加も積極的に促すこと。
- (6) 初任者指導教諭等は、優れた教育書を初任者に紹介し、自己の実践と比較分析させるなど、書籍や文献などを有効に活用した指導を行うこと。
- (7) 初任者指導教諭等は、初任者に対し、良い実践、悪い実践を具体的に示すなど、差を意識させる指導を行うこと。

3 その他

- (1) 各学期ごとに、指導主事等が学校を訪問し、校長、初任者指導教諭及び初任者等から取組の具体的内容や課題についてヒアリングを行い、今後の事業展開や今後の初任者育成のための研修体制の改善等に資する。
- (2) 初任者指導教諭等は、本事業の成果を普及するため、実施報告書を作成する。
- (3) 初任者指導教諭と当該初任者は、本庁において年に数回実施する推進協議会に参加すること。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名	北広島市立大曲小学校
-----	------------

1 基本方針

指導力のある教員が初任者を指導し、効果的、効率的な研修を実施する。また、学校における継続的、組織的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図ることにより、初任者の教科指導力、生徒指導力、学級経営力など、教員としての資質能力の向上に資する。

2 指導体制

指導体制の類型	B	初任者指導教諭名	岩崎 愛彦	石川 陽一
Dの具体的な体制				

※ 指導体制の類型は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校 長	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者指導の在り方について方針を示し、適切な実施について指導を行う。また、学校計画研修において初任者への講義を行う。
教 頭	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者指導の状況を把握し、初任者指導教諭等に対し指導を行う。また、学校計画研修において初任者への講義を行う。
初 任 者 指 導 教 諭	教科指導はもとより、学級経営や保護者対応等についてシャドローイングを実施し、初任者に対する指導を行う。
教務主任、研修主任等	初任者に対し、教育課程の編成及び学校全体で取り組む学習規律等の指導、校内研修の内容等について指導を行う。
同学年の教諭	初任者に対し、教科指導、学級経営、保護者対応等について初任者指導教諭の補助的な指導を行う。

4 使用するテキスト、教育書

・小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 ・若手教員の手引き（北広島市版）
 ・学校教育の手引―新しい先生のために― ・生徒指導提要

5 指導上の工夫

・初任者と指導教諭を同じメンターグループに所属することとし、日常の教科指導、学級指導はもとより学級経営や保護者対応等についても細かく話し合う機会を持つ。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名	旭川市立大春小学校
-----	-----------

1 基本方針

卓越した指導力のある教員が初任者をマンツーマンで指導し、効果的、効率的な研修を実施するとともに、学校における継続的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図る。

2 指導体制

指導体制の類型	C	初任者指導教諭名	山口 美智代	千葉 昌之
Dの具体的な体制				

※ 指導体制の類型は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校 長	ジョブシャドローイングを統括した指導方針の作成、初任者の指導及び助言
教 頭	実施計画の作成、外部講師・近隣校との連絡・調整、初任者の指導及び助言
初 任 者 指 導 教 諭	シャドローイングの計画及び指導と評価、学校計画研修への位置付け リフレクションノートの指導及び評価
教務主任、研修主任等	チームティーチングの計画と実施、指導時数の管理
同学年の教諭	教科等の指導、学級経営の指導

4 使用するテキスト、教育書

(1) 自校の教育課程、教育計画
 (2) 平成26年度版「新しい先生のために～学校教育の手引」（北海道教育庁学校教育局編）
 (3) 小学校学習指導要領（平成20年3月告示）、小学校学習指導要領解説総則編（平成20年8月）
 (4) 生徒指導提要（平成22年3月）、新卒教師時代を生き抜く学級づくり3原則（野中信行）
 (5) 教師の作法指導（野口芳宏）等

5 指導上の工夫

(1) シャドローイングの中心は当該学級の担任が行い、初任者担当教諭と教務主任による複数体制で指導に当たる。
 (2) 初任者を担当学年・学級の副担任とし、授業時間だけでなく、学級経営や学級事務に関わりながら研修を実施する。
 (3) 初任者については、チームティーチングのT2として配置し、当該学級の授業だけでなく、すべての教育活動等の指導を複数の教諭が行いながら研修を実施する。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名	名寄市立名寄小学校
-----	-----------

1 基本方針

卓越した指導力のある教員が初任者をマンツーマンで指導し、効果的、効率的な研修を実施するとともに、学校における継続的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図る。

2 指導体制

指導体制の種類	B	初任者指導教諭名	手塚 佳	林 琢	琢磨
Dの具体的な体制					

※ 指導体制の種類は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校長	初任者の育成に際しの方針の提示、初任者の育成に向けた取組全体の総括的な把握 取組の改善充実に向けた全教職員への指導
教 頭	校内における初任者の育成に向けた5か年計画の整備、初任者の育成に向けた進 行管理、関係部署・関係教職員への指導
初 任 者 指 導 教 諭	初任者とのティームティーチングによる授業 授業内外の各種業務の観察や省察を促すなどの初任者への総合的な指導
教務主任、 研修主任等	学校全体で初任者を育成する校内指導体制等の整備 継続的な研修・指導体制の確立
同学年の教諭	日常的なOJTの取組、初任者が毎日作成する省察のための記録（リフレクシヨ ンノート）の管理、実践的な指導力を養う研修の実施

4 使用するテキスト、教育書

- (1) 初任者研修実務必携2014 (第一法規)
- (2) 平成26年度学校教育の手引ー新しい先生のためにー(道教委)

5 指導上の工夫

- (1) 主となる初任者指導教諭との連携を図り、各週の時間割作成などの事前の打合せや授業中などにおいてマンツーマンで指導することにより、効果的、効率的な研修を実施する。
- (2) 初任者が業務を推進する過程で、所属する部・係や学年などの教職員が、日常的に初任者の成長を促すようサポート体制を工夫する。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名	大樹町立大樹小学校
-----	-----------

1 基本方針

指導力や意欲のある教員が初任者をマンツーマンで指導し、効果的、効率的な研修を実施するとともに、学校における継続的、組織的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図ることにより、初任者の教科指導力、生徒指導力、学級経営力など、教員としての資質能力の向上に資する。

2 指導体制

指導体制の種類	B	初任者指導教諭名	舟越 麻里子	児玉 直人
Dの具体的な体制				

※ 指導体制の種類は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校長	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者への指導の在り方についての方針を示し、適切な実施について指導を行う。
教 頭	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者への指導の状況を把握し、初任者指導教諭等に対し指導を行う。
初 任 者 指 導 教 諭	教科指導はもとより、児童理解を含めた学級経営や保護者対応等についてシャドローイングを実施し、初任者に対しマンツーマンで指導を行う。
教務主任、 研修主任等	初任者に対し、教育課程の編成及び学校全体で取り組む学習規律等の指導、校内研修の内容等について指導を行う。 学校力向上に関する総合実践指定校として、学校改善を行う本校の事業趣旨に もとづいた包括的な指導を行う。
同学年の教諭	初任者に対し、教科指導、学級経営、保護者対応等について初任者指導教諭の補助的な指導を行う。

4 使用するテキスト、教育書

- ・小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説
- ・学校教育の手引ー新しい先生のためにー
- ・各種教科の教科書、指導書等

5 指導上の工夫

- ・初任者がT2教員として初任者指導教諭等とTTを組み、指導案の作成や実際の指導、授業後の振り返り等を行うことを通して、初任者指導教諭等の業務を間近で観察できるようにする。
- ・学校力向上に関する総合実践指定校として、加配状況を生かした一部教科の専科制を導入している本校の特色ある授業実践を間近に観察し、ベテラン教員の良さを積極的に学び取れることができるようにする。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名	網走市立網走小学校
-----	-----------

1 基本方針

○ 初任者指導教員等を中心としてシャドローイングを実施し、年間を通じて効果的・効率的な研修を実施する。

2 指導体制

指導体制の種類	B	初任者指導教諭名	渋谷 亮祐	土谷 亮祐	上杉 一弘
Dの具体的な体制					

※ 指導体制の種類は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校長	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者への指導の在り方についての方針を示し、適切な実施について指導を行う。
教頭	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者への指導の状況を把握し、初任者指導教諭等に対し指導を行う。
初任者指導教諭	教科指導はもとより、学級経営や保護者対応等についてシャドローイングを実施し、初任者に対し計画的、継続的に指導を行う。
教務主任、研修主任等	初任者に対し、学校全体で取り組む学習規律等の指導や校内研修の内容等について指導を行う。
同年度の教諭	初任者に対し、教科指導、学級経営、保護者対応等について初任者指導教諭の補助的な指導を行う。

4 使用するテキスト、教育書

- ・ 小学校学習指導要領、言語活動の充実に関する指導事例集(文部科学省)
- ・ 全国学力・学習状況調査授業アイデア例、評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所)
- ・ 学校教育の手引、教育課程改善の手引き(北海道教育委員会)
- ・ 初任者指導教諭が所有する教育書

5 指導上の工夫

- ・ 初任者がT2教員として初任者指導教諭等とTTを組み、指導案の作成や実際の指導、授業後の振り返り等を行うことを通して、初任者指導教諭等の業務を間近で観察できるようにする。
- ・ リフレクションノートを活用し、教科指導力向上のための課題を整理させるとともに、今後の実践の見直し立てさせる。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名	北見市立三輪小学校
-----	-----------

1 基本方針

○ 初任者指導教員等を中心としてシャドローイングを実施し、年間を通じて効果的・効率的な研修を実施する。

2 指導体制

指導体制の種類	B	初任者指導教諭名	境田 正吾	原田 圭
Dの具体的な体制				

※ 指導体制の種類は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校長	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者への指導の在り方についての方針を示し、適切な実施について指導を行う。
教頭	ジョブシャドローイングをはじめとする初任者への指導の状況を把握し、初任者指導教諭等に対し指導を行う。
初任者指導教諭	教科指導はもとより、学級経営や保護者対応等についてシャドローイングを実施し、初任者に対しマンツーマンで指導を行う。
教務主任、研修主任等	初任者に対し、教育課程の編成及び学校全体で取り組む学習規律等の指導、校内研修の内容等について指導を行う。
同年度の教諭	初任者に対し、教科指導、学級経営、保護者対応等について初任者指導教諭の補助的な指導を行う。

4 使用するテキスト、教育書

- ・ 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説
- ・ 学校教育の手引ー新しい先生のためにー
- ・ 学校運営資料ー北見市教育委員会ー

5 指導上の工夫

- ・ 初任者がT2教員として初任者指導教諭等とTTを組み、指導案の作成や実際の指導、授業後の振り返り等を行うことを通して、初任者指導教諭等の業務を間近で観察できるようにする。

平成 26 年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名 倶知安町立北陽小学校

1 基本方針

初任者に対して、未来に生きる子どもたちのために①授業を大切に、②子どもたちと触れ合う、③自己を高め学び続ける、④保護者や地域社会と手をつなぐ、⑤専門性に優れた個性豊かな教師となるために、経験豊かな指導教員による実践的な研修を行う。

2 指導体制

指導体制の種類	C	初任者指導教諭名	佐藤 尚子	林 隆宏	岡田 亜希子
Dの具体的な体制					

※ 指導体制の種類は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校長	適切な研修となるよう校内体制を整え、シャドローイング研修の総括を行う。
教 頭	指導教諭に対し、適切な研修内容となるよう指導・助言を行う。
初 任 者 指 導 教 諭	シャドローイングを実施し、学級担任業務等について理解を深めさせる。
教務主任、 研修主任等	・校務分掌業務について、指導しながら業務を推進させる。 ・習熟度別少人数指導においてシャドローイングを実施する。
同学年の教諭	特別支援教育等について、担当教諭等と連携しながら業務を行う。

4 使用するテキスト、教育書

「学校教育の手引き～新しい先生のために～」(北海道教育委員会)
「平成 25 年度小学校教育課程改善の手引」(北海道教育庁学校教育局義務教育課)

5 指導上の工夫

- ・指導担当を中心として、組織的な取組として研修を行う。
- ・初任者に T T 授業や授業実践を行わせる機会を設け、より実践的な研修となるよう工夫する。

平成 26 年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名 釧路市立芦野小学校

1 基本方針

指導力のある教員が初任者をマンツーマンで指導し、効果的、効率的な研修を実施するとともに、学校における組織的、組織的な指導体制や初任者が研修に専念できる校内体制の整備を図ることにより、初任者の教科指導力、生徒指導力、学級経営力など、教員としての資質能力の向上に資する。

2 指導体制

指導体制の種類	C	初任者指導教諭名	瀧 美 清 孝	加 藤 和 江
Dの具体的な体制				

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校長	・ジョブシャドローイングの推進について明確なビジョンを提示する。 ・ジョブシャドローイングの推進に対して総合的な指導助言を行う。
教 頭	・ジョブシャドローイングの推進について全体統括を行う。
初 任 者 指 導 教 諭	・ジョブシャドローイングの年間推進計画に基づき、教科指導や生徒指導、学級経営の在り方等について初任者に対して日常的、継続的に指導助言を行うとともに、初任者の姿から自己の指導の在り方について評価し改善を図る。
教務主任、 研修主任等	・年間を通じた推進計画の立案や推進体制の整備、初任者及び初任者指導教諭への指導助言、管理職との連携調整など、効果的なジョブシャドローイングの推進に向けて全体をマネジメントする。
同学年の教諭	・年間推進計画を踏まえて学年としてのジョブシャドローイングに取り組みむねらひを明確にするとともに、初任者の教員としての資質能力の向上に向けて、日常的な授業公開や教材研究・開発の方法の提示などの支援を行う。

4 使用するテキスト、教育書

- ・「小学校学習指導要領」(文部科学省)
- ・「小学校教育課程編成(改善)の手引」(北海道教育委員会)
- ・「必ずクラスがまとまる教師の成功術～学級を安定させる縦糸・横糸の関係」(野中信行)
- ・「日々のクラスが豊かになる『味噌汁・ご飯』授業・国語科編」(野中信行)
- ・「5つの学習習慣～驚くほど子どもが勉強しはじめる」(横藤雅人)
- ・「子どもたちの小さなサインの気付き方と対応のコツ～どの子どもも輝く学級づくり」(横藤雅人)
- ・「ヒトウカンカリキュラム入門～学級崩壊を防ぐ見えない教育力」(多賀一郎)

5 指導上の工夫

- ・初任者は毎日、初任者指導教諭等とチーム・ティーチングを組むなど、授業内外の各種業務の総体を常に間近で観察し、頻繁に省察の機会をもつなどして、初任者指導教諭等の指導方法を総合的・徹底的に研修する。
- ・初任者が初任者指導教諭等から直接的に指導を受けられ、ジョブシャドローイングに専念できる体制をつくる。
- ・初任者は2年目からの独立を目指して、チーム・ティーチング等について、毎日、省察のためのノートを作成し、自己の視点や気付きなどを蓄積していく。
- ・初任者指導教諭等は、定期的に初任者の姿から自己の指導の成果と課題を明確にし、課題については管理職等からの指導助言に基づいて改善を図る。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名 旭川市立愛宕東小学校

1 基本方針

指導教諭によるジョブシャドローイング研修を通して、初任者に教師として必要な専門的知識及び基礎的技術を身に付けさせ、資質の向上を図るとともに、教育者としての立場や使命の自覚を習得できるようにする。

2 指導体制

指導体制の種類	A	初任者指導教諭名	宇野 弘 恵	(齋藤知尋主幹教諭)
Dの具体的な体制				

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校 長	初任者の育成に係る方針の提示及び初任者の育成に向けた取組の統括 初任者への講話
教 頭	実施計画の整備、初任者の育成に向けた進捗管理、関係教職員への指導 初任者への全体指導、本校の教育や勤務心得についての指導及び助言
初 任 者 指 導 教 諭	初任者との日常的なティームティーチングによる授業 学級経営全般についての指導及び助言、研修の指導計画の作成 初任者の省察を促すリフレクションの指導
教務主任、 研修主任等	他校の公開研究会や初任者研修への参加に係る連絡・調整 他学級への授業参観の調整、初任者への本校の研修・授業研究についての説明
同学年の教諭	初任者への定期的な授業公開

4 使用するテキスト、教育書

- (1) 学級経営に関する書籍
- (2) 授業づくりに関する書籍
- (3) 教育者の全集
- (4) 教育技術に関する書籍
- (5) 児童理解及び児童との人間関係づくりに関する書籍

5 指導上の工夫

- (1) 基本的に毎日、指導教諭とのティームティーチングの体制を組み、授業内外の各種業務の総体を日常的、長期的に観察し、省察の機会を設定する。
- (2) 日々の記録、省察ができるリフレクションシートを作成し、蓄積する。
- (3) 指導教諭以外の学級への授業参観を定期的に行い、教師としての視野を広げる。

平成26年度 ジョブシャドローイング実施計画

学校名 室蘭市立旭ヶ丘小学校

1 基本方針

- 1. 教員としての基礎的・基本的な資質技能を習得させ、実践的な指導力を向上させる。
- 2. 教育者としての使命感を養うとともに、幅広い知見を習得させる。
- 3. 実践的な研究になるよう学級経営、学習指導、生徒指導を中心とした研修内容を設定する。
- 4. 研修内容によっては、管理職をはじめとした各担当職員が講師となり、学校全体で教員を育てる体制をつくる。

2 指導体制

指導体制の種類	B	初任者指導教諭名	熊谷 加奈子	千葉 康弘
Dの具体的な体制				

※ 指導体制の種類は別紙3の留意点にあるA～Dから選択してください。B、Cを選択した場合は、初任者指導教諭名を複数記入してください。Dを選択した場合、具体的な体制について記入してください。

3 校内体制の工夫

役職等	主 な 役 割
校 長	研修全般の進捗状況を把握し、面談等を通して初任者の状況を把握する。 学校教育を取り巻く現状や動向、教員としての資質等の研修内容を担当する。
教 頭	研修全般の進捗状況を把握し、実施計画の推進、記録の保管に当たる。 学校教育全般や組織運営、服務などの研修内容を担当する。
初 任 者 指 導 教 諭	初任者指導の実質を担う。先輩教師としての範を示す。 学級担任としての基礎・基本、教員として必要とされる事のすべてについて、実践を通して指導する。 * 教育課程編成、特別支援教育などの研修テーマに沿った内容を指導する。(教務) * 教育相談や児童理解、事例研修などの研修テーマを担当して指導する。(生徒指導) * 研修体制や研修の進め方、研究授業づくりなどの実践的な内容を指導する。(研修部長)
教務主任、 研修主任等	学年学級業務や授業づくりなど、実際の取組を初任者に紹介したり、参観してもらったりする。その後協議を行うなどし、より実践的な研修に結び付けていく。
同学年の教諭	

4 使用するテキスト、教育書

- * 新しい先生のために(北海道教育委員会)
- * 学習指導要領～各教科・領域(文部科学省)
- * 学習指導要領解説～各教科・領域(文部科学省)

5 指導上の工夫

- * 学級の副担任及びJTによる指導を中心とした指導体制を組み、実践的な指導を重点的に行う。
- * 当該学年の協力が必要な場合は、各学年の時間割を考慮して、教頭と教務を中心に調整を図り、指導体制を確立する。
- * 初任段階教員研修に充てる時間を確保する。(学年打合せも含む)
- * 校務分掌にかかわる指導については、校務部全体でその内容を指導する。

月別計画表

4月

学校名

釧路市立芦野小学校

【重点】 ○年度始及び年間の業務等について把握する。	【主な研修項目】 ○新学期を迎える教員の業務内容(学級開きや授業ガイダンスの構想等) ○全国学力・学習状況調査に向かう学校体制
-------------------------------	---

○研修の展開

週	1	2	3	4	備考
主な学校行事	年度始休業	入学式・始業式・着任式 視力・聴力・身体検査	授業参観 PTA総会 校内研修	全国学力・学習状況調査 釧路市標準学力検査 家庭訪問	
研修内容	○本校の概要 ○年度始及び年間業務の内容 ○校務分掌等の内容 ○各教室等の機能	○儀式的行事の意義及び運営体制 ○学級開きのポイント	○PTAの意義と保護者との接し方 ○全国学力・学習状況調査に向けた準備体制	○全国学力・学習状況調査の事後対応 ○家庭訪問の意義	

○配慮事項

・学校の年間スケジュールを理解するとともに、教員として見直しをもって業務を推進することの意義について丁寧に伝える。
・儀式的行事や全国学力・学習状況調査などの準備に実際に携わり、学校として組織的に業務に携わることの意義を実感させる。

月別計画表

5月

学校名

釧路市立芦野小学校

【重点】 ○各種業務の系統性・継続性の意義について理解する。	【主な研修項目】 ○各教科等における年間指導計画及び単元の指導計画の作成・活用 ○学校全体で取り組む校内研修
-----------------------------------	--

○研修の展開

週	1	2	3	4	備考
主な学校行事	家庭訪問 1年生を迎える会	PTA委員総会 校内研修	交通安全教室	防犯教室 内科検診 眼科検診 校内研修	
研修内容	○各教科等の年間指導計画及び単元の指導計画の監察	○各教科等における系統的・継続的な学習内容の確認	○学校全体で校内研修に取り組む体制	○研究主題や研究内容、研究仮説と日常の授業との関連	

○配慮事項

・各教科等の年間指導計画や単元の指導計画から学習内容の「つながり」を理解し、継続的に指導することの意義に気付かせる。
・学校組織として校内研修に取り組むことの意義について気付かせる。

実 施 記 録 票

各学校において初任者自らが日常のジョブシャドーイングの実施状況等を記録した実施記録票を作成（1名分を抜粋）

ジョブシャドーイング実施記録票1

月	日	校時	学級	教科	内容
7	7	5	4年1組	体育	授業研究(TT・習熟) 走り高跳びの授業を行った。活動に入る前の指示の仕方や記録表にコメントをすることが児童の学習意欲につながるという指導を受けた。
7	7	5	4年1組	体育	目標と指導と評価 授業中の様子や記録表の測定結果、記録表の記入の仕方を見ながら評価をすることについて指導を受けた。
7	8				通知表の作成 大有小学校の通知表作成の手引きを参照し、通知表の作成方法を学び、初任者指導教諭より指導を受けた。
7	9	1	4年1組	国語	授業の参観と分析 今まで学習してきた漢字を復習し、既習漢字を使って文章を作る指導方法について学んだ。
7	10	4	4年1組	算数	教科指導の反省 自らの授業を振り返り、発問や指示に対する児童の反応を考えながら、次の授業に向けて改善策を考えた。
7	14	6	4年1組	学活	七夕集会に向けて 七夕集会の発表内容や練習のさせ方、学級の願い事の決め方について学んだ。
7	16	5	4年1組	体育	授業研究(TT・習熟) 鉄棒の授業を行った。練習方法の説明の仕方や記録用紙の活用について指導を受けた。
7	22	5	4年1組	音楽	授業研究(TT・習熟) リコーダーのテストを行った。一人ずつ吹かせ、評価をした。テストの方法や評価の仕方について指導を受けた。
7	23		4年1組		学級通信の作成 1学期の振り返りや夏休みの過ごし方、宿題、2学期に向けて等学級通信に書く内容を先輩教師の学級通信から学ぶことができた。
7	29				授業実践に関する基礎技術 夏休みのミニ教室に参加し、前日までの準備や当日の指導を行うことを通して、授業に活用できる基礎技術を学んだ。
8	1				学習指導案の作成 教育実践研究発表会に向けて、全体研修や高学年ブロックの指導案検討に参加し指導案の構成の仕方や書き方について学んだ。
8	1				教材研究の進め方 教育実践研究発表会に向けて、高学年ブロックの指導案検討に参加し、研究とのかかわりや課題とまとめの設定、本時の流れについて先輩教師の意見から学んだ。
8	4				教材・教具の活用 教育実践研究発表会で活用する実物投影機の使い方や日常の授業における活用の仕方について学んだ。
8	5		4年1組		教室環境の整備 ワックスがけ業務のための清掃や、2学期に向けて机やいすの配置を考えた。
8	7		4年1組		学級担任の準備 新学期に向けて、授業の準備や組織作りについて先輩教師から学び、学んだことを生かしながら授業の準備を行った。
8	21	2	4年1組	社会	授業の参観と分析 教科書を読み進めながら、調べ学習を各自で行い、ノートやプリントにまとめていく学習方法について学んだ。

8	26	3	4年1組	算数	授業研究(TT・習熟) 面積の単位間の関係を理解させる授業を行った。前時までの学習と結びつけながら授業を進めていくようにと指導を受けた。
8	28	3	4年1組	理科	授業の参観と分析 季節と生き物の学習で、サクラやヘチマの春と夏のちがいを観察させるための視点の持たせ方について学んだ。
9	3		4年1組		教室環境の整備 清掃強化週間を受けて、清掃方法の見直しや重点目標を決めさせることを通して、児童とともに清掃についての意識を高めた。
9	5	1	5年2組	算数	授業の参観と分析 教育実践研究発表会の先輩教師の授業を参観して、発問・指示の仕方、板書の仕方、ノート指導の方法について学んだ。
9	5	2	6年1組	算数	授業の参観と分析 教育実践研究発表会の先輩教師の授業を参観して、発問・指示の仕方、板書の仕方、ノート指導の方法について学んだ。
9	8	5	4年1組	体育	授業研究(TT・習熟) サッカーの授業を行った。単元を貫く約束事を教師と児童で確認することで、全員が楽しくサッカーを行える雰囲気作りが大切だということを教えていただいた。
9	9	1	4年1組	国語	授業の参観と分析 物語文の学習において、難易語句を国語辞典で調べさせる方法や、音読練習の仕方について学んだ。
9	16	5	6年	算数	授業の参観と分析 個人思考と集団思考の仕方について、集団思考の時間に、すぐに全体で確認するのではなく、小集団に分かれて自分の考えを発表する方法について学んだ。
9	18	2	2年1組	国語	授業の参観と分析 物語文で、登場人物の気持ちを考えプリントにまとめていく方法を学んだ。登場人物の気持ちを考えながら、音読をさせる仕方についても学んだ。
9	19	2	2年	音楽	授業の参観と分析 発声練習の仕方や、リズムの取り入れ方、ピアノを演奏することを通して、児童を自然に活動に取り組みせていく方法について学んだ。
9	22	3	1年2組	国語	授業の参観と分析 カタカナの授業を参観して、カタカナを一文字ずつ練習する方法について学んだ。
9	24	2	4年1組	図工	授業研究(TT・習熟) 粘土の授業を行った。構想のイメージが浮かばない児童に対する声かけの仕方についてアドバイスを受けた。
9	26	2		児童会	児童会活動の指導 児童会立会演説会の指導にあたり、児童が中心となって演説会を進めていけるようにするための指導の仕方について学んだ。
9	26	4	6年	算数	授業の参観と分析 集団思考の際に、誤った解答をしている子を取り上げ、なぜ違うのかを他の児童に説明させる等、クラス全体で課題を解決する方法を学んだ。
9	30	4	3年	算数	授業の参観と分析 三角形の学習で、ペア学習の仕方やペアで考えたことを集団思考の場で交流する方法について学んだ。
10	1	3	6年	算数	授業の参観と分析 問題提示から、課題へ入る際の児童との対話の仕方や、授業中の発問の仕方などを学んだ。

10	1		4年1組		学校行事の指導 学芸会に向けて、発表演目や配役の仕方、指導方法について初任者指導教諭との話し合いを通して学んだ。
10	2	2	1年2組	算数	授業の参観と分析 同じ初任者教諭の授業を参観し、集団思考において考えを深めることの大切さや事後研において、先輩教師からわかる子に対して問題意識をもたせる工夫の仕方について学んだ。
10	3	1	5年	算数	授業の参観と分析 分数の授業で、テンポ良く前時までの復習をすることの大切さ、多くの児童が発言できる場の作り方について学んだ。
10	6	3	5年	算数	授業の参観と分析 分数の授業で、前時で学習したことを基に本時の学習を行うこと の大切さや発言の仕方、発表者の発表の聞き方等の学習規律 の大切さについて学んだ。
10	6	4	4年1組	音楽	授業研究(TT・習熟) リコーダーと歌唱の授業を行った。歌唱指導では、気を付けさせ たい点の指導の仕方についてアドバイスを受けた。
10	7	5	6年2組	社会	授業の参観と分析 歴史の授業で、教科書の挿絵に合わせて声色を変えて音読させる 等児童が意欲的に授業に参加できるような工夫について学ん だ。
10	8	2	2年2組	算数	授業の参観と分析 かけ算の授業で、教師が誤った考えを提示し、どこがちがうのか を考えさせる方法について学んだ。
10	10	6		クラブ	クラブ活動の指導 目標や計画、三役の決め方など前期で学んだことを生かし、指導 にあたった。児童が中心となって進められるような声かけの仕方 を学んだ。
10	15	2	3年	算数	授業の参観と分析 間違えても良い、間違えた方が勉強になるという声かけを行うこと によって、児童に学習意欲を持たせることの大切さを学んだ。
10	15	5	4年1組	道徳	学級の危機管理 学芸会に向けて、体育館での過ごし方についての指導方法を学 んだ。照明機器や音響機器がたくさんあるため走らずに気を付け て移動するなどの指導を行った。
10	16	4	5年1組	国語	授業の参観と分析 読み深めたことを生かしながら、朗読を行う授業を参観し、単元を 貫く言語活動を常に意識させる指導方法を学んだ。
10	16	5	4年1組	音楽	授業研究(TT・習熟) 曲に合わせてリズムを考える授業を行った。授業の始めにミニ レッスンとして、さまざまなリズムを手拍子で叩く練習方法につ いてアドバイスを受けた。
10	20	2	6年	音楽	授業の参観と分析 合唱曲の指導で、歌い始めの指導の仕方、声の出し方の指導 方法について学んだ。
10	22	1	1年2組	国語	授業の参観と分析 物語の内容を具体的に想像させるために、自分のことに置き換えて 考えさせる方法について学んだ。
10	23			行事	学芸会の指導 係児童に対する指導の仕方、観覧するときの注意事項の指導 の仕方、演劇指導の仕方を学んだ。
10	29	3	4年1組	音楽	授業研究(TT・習熟) 鑑賞の授業を行った。鑑賞をさせる際に聴くポイントを板書して確 認できるようにすること、掲示物について指導を受けた。
10	29	5	4年1組	体育	授業研究(TT・習熟) ハードルの授業を行った。ハードルを置く向きを気を付けること、 お手本児童に対する周りの児童の反応への指導の仕方について アドバイスを受けた。

11	4		4年1組		教育相談の実際 教育相談で保護者と話す内容や、話したことに対する児童への対応について学んだ。
11	5	4	4年1組	国語	授業研究(TT・習熟) 「ごんぎつね」の第一時の授業を行った。範読の仕方や初発の感想の書かせ方についてアドバイスを受けた。
11	11	6	5年1組	学活	学校図書館の活用 図書館の利用を児童に促す指導の仕方や、図書館の良さを出し合い、児童自身が積極的に本を借りに行きたいと思えるような指導方法について学んだ。
11	12	2	4年1組	国語	授業研究(TT・習熟) 「ごんぎつね」の場面読み取りの授業を行った。個人思考の方法や、時間配分、全体で交流するときの児童の意見の取り上げ方について指導を受けた。
11	13				校内研修への対応 校内研修に向けて、指導案の検討を初任者指導教諭と行いアドバイスを受けた。また、授業に向けて教材・教具の準備を行った。
11	14	6		児童会	児童会活動の指導 三役を中心に委員会を進めさせながら、不十分な部分を教師が補足していく指導方法について学んだ。
11	18	3	4年1組	国語	授業研究(TT・習熟) 「ごんぎつね」の場面読み取りの授業を行った。課題に対応する板書をする事、多くの児童が発言できる場を作る事、授業の展開にメリハリをつける事などについて指導を受けた。
11	20				職員会議への対応 職員会議に参加し、会議の進め方や議題の検討の仕方について学んだ。
11	21	6		クラブ	クラブ活動の指導 活動を安全に進めること、常に児童がけがをしないように注意を払うことについてアドバイスを受けた。
11	26	4	4年1組	体育	授業研究(TT・習熟) ソフトバレーボールの授業を行った。円陣パスの練習のさせ方や、ミニゲームの特別ルールの設定の仕方についてアドバイスを受けた。
12	1	3	4年1組	理科	授業の参観と分析 理科室において、実験を行う指導方法について学んだ。安全に気を付けさせながら、班毎に役割分担をさせ実験を進めさせていく方法を学んだ。
12	3	4	4年1組	国語	授業研究(TT・習熟) 「ごんぎつね」の授業を行った。作成したごん日記の発表会を行った。目的意識を持たせて、友達のごん日記を交流させ合う方法についてアドバイスを受けた。

ジョブシャドーイングにおける 初任者の自己点検 ～リフレクションシートの概要～

1学期、2学期終了時には、ジョブシャドーイングの取組の自己点検のため、初任者がリフレクションシートを作成（内容を抜粋して掲載）

ジョブシャドーイングにおける初任者の自己点検 ～リフレクションシートの概要（1学期）～

- 1 初任者指導教諭の指導や授業等の参観を通して、学んだ点や印象深かった点など
また、その理由

【学習指導】

- ◆授業の中で、学習規律を徹底することや板書の仕方、児童との対話の仕方を学んだ。特に学習規律について、はじめと終わりの挨拶を「立腰」という姿勢で行うための指導方法を学び、自分の授業場面でも徹底することができるようになってきた。
- ◆先輩教師の授業を参観することで、子どもを褒めることの大切さを学んだ。私は子どもの行動を正すために注意したりや叱ったりすることが多く、子どもを無理に変えようとしているのではないかと疑問に感じるが多かった。しかし、子どもを褒めることによって、「よいこと」、「悪いこと」の判断がつくようになり、子どもが自分から考えて行動できるようになることがわかってきた。
- ◆私が授業をした際、子どもが反応する時間をもつことの必要性に気付いた。私は自分が話しすぎてしまう授業をしていたので、子どもの反応を待ち、発言の機会を多く設定することで、学習意欲の向上につながることをわかった。
- ◆先輩教師の授業を参観することで、子どもに指示をするとき等、教師の話聞く状態にさせることの大切さを学んだ。授業を進めることだけで精一杯になっていることが多く、教室の前の方にいる子どもばかりに目がいていた。何か指示をするときは、教師の方へ注目する声かけをし、教室全体を見ることが大切だと気付いた。
- ◆見ることと実際に自分がやることとは大きく違うということを学びました。日々素晴らしい実践を目にし、「私もやってみたい！先生のようにやれるようになりたい」という思いが強くなります。しかし、実際にやってみると、授業の中の丸つけや端的明瞭な指示一つとってみても、同じようにできるものは何もありませんでした。それは、ただ経験年数に差があるから起こることではないと思います。指導教官がいかに意識してやり続けたか、どれだけ技術向上に向けて努力し続けたかだということに気付くことができました。
- ◆どんなときにも児童の動きや反応を意識して指導していること。児童が常に目標に向かっているかどうかを見ながら、適時全体指導を入れたり個別指導を入れたりしていることで、指導と評価の一体化を図ることができていると感じた。
- ◆子どもにあたたかい声かけをたくさんしていること。授業だけではなく、日常生活で児童に意欲をもたせるような声かけをしていることが多く、児童がすぐに動いたり意欲をもって活動したりすることにつながっていると感じた。

- ◆授業での児童の活動が多いこと。授業中にメリハリがあり、児童が飽きずに授業に参加している。そのような授業の構成の仕方が、まだ自分には身につけていないと感じた。
 - ・学習規律は学習技能の一つと捉えて指導し、評価すること。
 - ・授業において繰り返し指導し、児童が自主的に行えるよう訓練していくこと。
 - ・指導されたことは必ず評価されるということを子どもに伝えるため、ある程度、観察する児童を決めておき、教師が児童を見ている姿を他の子どもにも見せること。
 - ・緩急を付けた授業を行うこと。
 - ・説明・指示・発問を分けて、一文一義で発話すること。
 - ・教師の発話は最低限の内容に留め、子どもの活動時間を保障すること。
 - ・児童に活動をさせた場合、必ず評価の言葉をかけること。
- ◆本時でどのような力を身に付けさせたいかのみで授業を考えていた。単元を見通すことで、本時の授業では特に何に力点を置くべきか明確になることを学ぶことができた。
- ◆児童が発した意見をすぐ取り上げていた。多様な考えを引き出すためや、授業中に勝手に発言しないという学習規律を徹底するためにも、時間をおいてから取り上げることも大切であることを学ぶことができた。
- ◆一単位時間の中で、子どもに付ける力を明確にし、課題を設定することを学んだ。また、授業後に課題とまとめの整合がとれているかを振り返り、次の授業へ生かすことの大切さに気付いた。これらは特に指導教諭から指導を受けた点であり、自らの授業づくりにおいて最も意識している点である。
- ◆板書は構造的に書くことが重要であり、板書の構造は授業の構造と一致していなければならないことを学んだ。課題とまとめの整合を図ることはもちろん、課題解決に向けて手がかりとなる既習事項をどこに位置付けるのか、学習用語をどこに位置付けるのかなど、授業を参観する際の視点を強く意識するきっかけになった。
- ◆学習規律を身に付けることが、最終的には学習内容の理解や定着にもつながることが分かった。
- ◆授業の際に、児童がつまづきそうなポイントをあらかじめ予想し、分かりやすくするための教材、発問の工夫をしていた点です。教材研究の大切さを学びました。
- ◆教えることと考えさせることを明確にしていた点です。これは授業だけではなく日常の指導にもかかわる事で、どのように成長して欲しいのか考えたうえで行っていました。
- ◆学年・単元を見通した学習指導が難しい。授業が終わってしまってからや、単元の途中で「ここに重点を置くべきだった。」と気づくことが多々ある。

【生徒指導】

- ◆生徒指導の場面において、児童自身がどのように自分のしたことを振り返って、自分の悪いところを納得した上で認めさせるかについて学んだ。同じような場面に出会った時その学びを生かして、児童の話聞き、聞いたことをまとめ、児童に順序立てて話すという生徒指導を実践することができるようになってきた。
- ◆最初は厳しく接し、児童の実態に合わせて、徐々に優しくしていく方がよいこと。教師の姿が学級のルールとなることから、教師は児童のモデルという意識をもって指導すること。
- ◆心豊かな人間性をもった人としてのモデルとなる行動を日常的に見せるようにするとともに、児童の問題行動等に対しては、毅然とした態度で接すること。
- ◆児童（同士）のトラブルの後には、誠意をもって保護者に連絡することが大切であると学ぶことができた。また、保護者同士の関係も非常に重要で、目を配る必要があることを学ぶことができた。

【指導全般】

- ◆学びのない教師の授業に魅力はないということを教えて頂きました。学ぶことの喜び・苦しみ・感動を児童と共有、共感することのできる教師にしか教えられないことがあります。現に指導教諭は、もう十分技術も知識も経験もあるように思えるのに、ご自分ではそうは思わず、幅広い分野のことを深く学ぼうとされている姿に感銘を受けたため、深く印象に残っています。
- ◆教育活動全てに教師の意図があるということ学びました。教師がどれだけ意識しているか、何を大切にしているかによって、児童の成長の幅が異なると感じました。指導教官は常に成長のきっかけを用意し、児童を見取り、評価しています。
- ◆指示を出す、子どものノートをみんなに見せる、視線を前に集めるなどに実物投影機を使い、黒板に残すものを拡大印刷して掲示することを学んだ。
- ◆学年・単元を見通した学習指導が難しい。授業が終わってしまってからや、単元の途中で「ここに重点を置くべきだった。」と気づくことが多々ある。

【学級経営】

- ◆学級経営では、自学・SLAC・係活動など、子どもたちが意欲的に取り組むような仕掛けや、子どもの良さを発揮する場面を多く設けているので、子どもたちが意欲的に学校生活を送れている。
- ◆子どもの実態把握について、学習も学級経営も一人ひとりにしっかり目を向けることで効果が発揮されることを学びました。

2 ジョブシャドーイングにより感じている悩みや疑問

【学習指導】

- ◆ 4 学年の副担任であるため、4 学年の授業は十分参観することができているが、他学年の授業や児童の様子をみることが学校体制上難しい状況にある。他の学年の児童の様子や、先輩の先生方の授業を参観できるような時間割の調整を進めていきたい。
- ◆ 学年・単元を見通した学習指導が難しい。授業が終わってしまってからや、単元の途中で「ここに重点を置くべきだった。」と気づくことが多々ある。

【生徒指導】

- ◆ 生徒指導の型を繰り返し実践しているが、児童との信頼関係の薄さや言葉選びの難しさなどがあり、初任者指導教諭が行っている生徒指導のようにはなかなか実践できていないという状況である。そのため、今後生徒指導の方法についてさらに追求していきたいと考えている。
- ◆ 担任の学級経営の意向もあるので、どうしても担任への確認が必要になる場面がでてくる。その点で迅速に対応できなくなってしまうこと、2 回目以降児童が相談してこなくなってくるのではないかと心配です。
- ◆ 児童同士のトラブルがあった際の保護者への対応や、懇談会の様子などを見て、保護者とのかかわりの難しさを感じた。自分が担任になった時に、子どもたちにどのような力を育みたいのか、そのためにどのような指導をしていくかを明確に持ち、保護者に伝えていかなければならない。より具体的な視点を持ってシャドーイングを続ける必要があると感じている。

【指導全般】

- ◆ 1 年生の副担任という立場上、算数や国語の授業参観で学んだことが実践できる場が少ないこと。
- ◆ 普段 T T 等で入っていない学年との交流が少なくなること。
- ◆ 様々なこと（授業や学習準備、生徒指導、学級事務等）を一緒にやっているの、疑問などもすぐに解決することができているし、学びが多い毎日を過ごすことができている。
- ◆ 質問に対して丁寧に答えてくれ、喜びを感じる一方、担任業務を把握できていない自分に焦りを感じるとともに、不適切な指導をしてしまうことに申し訳なく思っている。経験によって培われた教員の常識を十分に理解することができず辛いことがある。教師としての 1 年後の姿を明確にするとともに、各月の達成目標を意識しながら教師力の向上を図っていくことが必要であると感じている。

【学級経営】

- ◆ 初任者指導教諭から話を聞きながら日々学んでいるが、副担任という立場であるため、保護者との関わりがあまりなく、実際に対応をしたことがないので担任を受け持った時に対応できるかどうか不安に感じている。
- ◆ 児童同士のトラブルがあった際の保護者への対応や、懇談会の様子などを見て、保護者とのかかわりの難しさを感じた。自分が担任になった時に、子どもたちにどのような力を育みたいのか、そのためにどのような指導をしていくかを明確に持ち、保護者に伝えていかなければならない。より具体的な視点を持ってシャドーイングを続ける必要があると感じている。
- ◆ 適切な実態把握が難しい。授業に関しては、どれくらい内容を理解しているのか、どこでつまづいているのかを素早く判断できない。

3 ジョブシャドーイングの成果を日常の授業づくりや学級経営等に活かすとき、重要と思われる点

- ◆ 1学期中に、子どもの集中力を高めるための手立てや、教師に注目させるための方法などを初任者指導教師から学び、学んだことを児童に実践してきた。2学期以降は、初任者指導教員から学んだことを同じように行うだけでなく、自分なりのアレンジを加えていくこと。
- ◆ 「わかる・できる・楽しい授業」を目指すために、授業の中で、児童が意欲的に学習しようとするような教材研究をし、児童が引きつけられるような発問の工夫を追求していくこと。
- ◆ 初任者指導教員の授業や生徒指導などから学んだことや、自分が授業を行った際の課題点や初任者指導教員から助言していただいたことを引き続き記録に残していくこと。
- ◆ 授業づくりを行う際には、ジョブシャドーイングで見た子どもたちの反応などを考慮しながら行うことで、授業の展開や子どもへの配慮に活かすことができると思った。また、ジョブシャドーイングで学んだことをそのまま実践するのではなく、目の前の児童にあわせて、自分なりに変化させること。
- ◆ ジョブシャドーイングで、新たに学んだことや気付いたことを記録に残し、今後の授業づくりや学級経営に活かすことができるようにすること。
- ◆ 学んだことや大切だと分かったことについて、常に意識し続け、自分のものにしていくため、毎日毎日やり続けること。

- ◆最初は指導教官の真似でも、段々と自分のものに変化させていくこと。
さらには、ただ指導教官から学んだことをするのではなく、自分なりの考えや思いを明確にもった上で実践すること。
- ◆ジョブシャドーイングで学んだことを踏まえ、目の前の児童のために、自分は何ができるのか、何をすべきなのか考えて実践すること。
- ◆授業の技術だけを見るのではなく、指導教員の人間性や授業の意図、指導の背景などについて総合的に学ぶこと。
- ◆児童に対して有効な指導をするため、絶えず実践を検証し、改善を図っていくこと。
- ◆前担任との引き継ぎを密に行うことや日常の見取りをしっかりと行い気付いたことを記録しておくなどした児童理解やそれをもとに学級経営の方向性や授業のしかたを考え、児童の実態にあった指導をすること。
- ◆学習規律や生徒指導などで、学年レベルや全校レベルで情報を共有することや指導の方向性を統一すること。学級間や学年間で差が出すぎないように連携して指導すること。
- ◆自分が担任になった時に、子どもたちにどのような力を育みたいのか、そのためにどのような指導をしていくかを明確に持ち、保護者に伝えていくため、より具体的な視点を持ってシャドーイングを続けること。
- ◆指導教諭の優れた学習指導や学級経営をそのまま取り入れようとするのではなく、児童の実態や自分の指導観、指導力に合った指導法を見極めて応用すること。
- ◆児童が安心して自分の考えを述べることができる環境を、教師が意識的に作ること。
- ◆授業を行う際には、「この一時間で意識すること」を1、2点に絞ること。
- ◆児童の姿、児童の変容を通して、自己の実践を振り返る理論と実践を繰り返し行うこと。
- ◆指導教諭の指導法を形だけまねるのではなく、その指導法の有用性や背景などを理解した上で取り入れるとともに、また有用性や背景を押さえた上で、アレンジして自分の指導に活用すること。
- ◆複数教員から授業や指導場面、子どもへの接し方を見せていただいているので、効果的な指導方法や、自分に合う指導方法を考えること。
- ◆授業の際に、児童がつまづきそうなポイントをあらかじめ予想し、分かりやすくするための教材、発問の工夫をすること。
- ◆教えることと考えさせることを明確にすること。
- ◆子どもの実態把握について、学習も学級経営も一人ひとりにしっかり目を向けることで効果が発揮されること。

ジョブシャドーイングにおける初任者の自己点検 ～リフレクションシートの概要（2学期）～

- 1 初任者指導教諭の指導や授業等の参観を通して、学んだ点や印象深かった点
また、その理由

【学習指導】

- ◆私は場面分けや心情を読み取ることばかりにとらわれすぎていた。しかし、現在の国語科は「単元を貫く言語活動」が大切で、「単元を貫く言語活動」とは何か、ねらいを達成させるために単元（授業）内でどう設定すると良いのかを学ぶことができた。
- ◆児童の学力を高めるために授業をどう構成するかばかり考えていた。しかし、授業をおもしろくすることで、児童は教師の話を聞くようになるということを指導していただき、授業は学級経営にもつながるものであるということを学ぶことができた。
- ◆様々な教科や領域の活動を通して、児童の意欲を高める方法を学ぶことができた。私は、活動は児童の意欲があってこそ有意義なものとなると考えているので、大変勉強になった。
- ◆一単位時間の中で、子どもに付ける力を明確にし、課題を設定することを学んだ。また、授業後に課題とまとめの整合性がとれているかを振り返り、次の授業へ生かすことの大切さに気付いた。これらは特に指導教諭から指導を受けた点であり、自らの授業づくりにおいて最も意識している点である。
- ◆板書は構造的に書くことが重要であり、板書の構造は授業の構造と一致していなければならないことを学んだ。課題とまとめの整合を図ることはもちろん、課題解決に向けて手がかりとなる既習事項はどこに位置付けるのか、学習用語はどこに位置付けるのかなど、授業を参観する際の視点を強く意識するきっかけになった。
- ◆数年後の児童の姿を見通した授業づくり
その単元及び一単位時間の授業の中で、児童に身に付けさせたい力をはっきりさせることで発問や指示が明確になること。（それぞれ違うタイプの先生方でもこの点は共通していた。）また、教材研究・準備＝授業者としてのプロ意識を感じた。
- ◆授業の中で、意図的に必ず全員が発言をしなければならない状況を作り出して、特定の児童ばかりが発言することのないようにする指導方法を学んだ。全員が簡単に答えられる発問をしたり、全員起立させて答えられた人から着席することができるようにしたりするなどの方法をとることによって、教師の発問に対して全員が挙手するという場面が印象深かった。授業を行った際には、同じように実践し、発言の少ない児童を指名するなど全員が発言できる場を作ることができるようになってきた。

- ◆授業の中で、教師が一方的に教え込むのではなく、教師がわざと間違えたり、児童が興味をもつような発問をしたりすることによって、児童が生き生きと授業に参加している姿が印象深かった。初任者指導教諭の授業は何度も参観しているが、いざ自分が授業を行うとなかなかできないという課題もあるので、今後も児童との信頼関係を築きながら「わかる・できる・楽しい」授業に挑戦していきたいと考えている。
- ◆先輩教師の授業で、学習した内容を児童に復唱させ、学習内容の定着を図る指導の方を学んだ。私は自分で授業をした時に、「わかりましたか。」と児童に問いかけることが多く、それに「はい。」と児童が返事をするので、学習内容が定着したと思っていた。しかし、実際に練習問題を解かせてみると間違えてしまう児童がいたので「わかりましたか。」の問いで確認するのではなく、計算の手順や学習のまとめを復唱させてから、練習問題に取り組みせると、学習内容の定着を確認できることに気付くことができた。
- ◆児童への指示が適切であったのか不安になってしまうと、児童が作業中にもかかわらず、さらに指示を出してしまうことがあった。児童の学習への集中力を途切れさせないためにも、児童への発問や指示の一つひとつを吟味していく必要があると思った。
- ◆授業や指導は、教師の教育観や教育哲学に基づいていることを学びました。全てはつながっており、一貫した教育を支えるのが教師の中にある哲学です。これがあるからこそ、活動の趣意説明や児童の言動に対する価値づけをすることができるのだと思う。
- ◆本時における机間指導について
初任段階教員の指導により、1学期にはあまり重視して見るができなかったことがわかった。シャドーイングを行う際に重視して見るようにしたところ、学習に遅れの見られる児童を指導したり、評価をしたり、授業で取り上げる考えを見取ったりするなど、意図をもって行っていることがわかった。
- ◆単元全体の見通しをもつことについて
授業準備を進める上で、単元を見通した授業づくりが難しいと感じている。初任段階教員の指導を受け、まずは1単位時間の学習をあらかじめ見通すことが重視して授業計画を立てた。また、時間割も見通しをもって作成していることが分かった。

【生徒指導】

- ◆児童の話をもまずは最後まで聞くこと（共感的理解）
生徒指導などもまずは児童の話に傾聴すること。何が悪くて何がよいのかを改めて考えさせる機会を与えることも教師の役目だと感じた。また、教育者としての教育観、教師観を肌で感じることができ、日常のきめ細かな指導・対応・支援を肌で感じることもできた。

- ◆ 初任者指導教諭の指導を見て、厳しく指導する場面と優しく注意する場面などさまざまな指導の仕方を学んだ。私は、児童の行動一つ一つに対して厳しく指導することが多くなっているのので、めりはりをつけて指導することを今後、心がけていきたい。

【指導全般】

- ◆ 下位の児童への支援の仕方

特に低学年では、全体指導の中で発言の機会を与えたり、本人のがんばりをほめる言葉かけを行ったりするなど、本人の意欲が低下しないように様々な配慮がされていた。その際、重要になることは、児童の実態把握であること。

- ◆ 諦めずに努力し続けることで必ず成長できるということを、努力し続ける指導教諭の姿をもって、教えていただいている。

- ◆ 理想状態のイメージ力を高めることが、より良い指導につながる。「見通し」という一本の線では、手順に縛られ実態に合わせていくことが難しくなる。

そのため、「理想状態」という目標だけを明確にイメージし、目標へ到達する方法を多様にもつことが大切である。

- ◆ 時間を守ること、子どもとの約束を守ること、成長して帰らせること、この三つが学級経営の基盤となる。

- ◆ 指示を徹底する場面をつくる。「やらないことを許す」場面をつくらない。

教師は覚悟をもって子どもと向き合い、出した指示を徹底させる。徹底させるための仕組みや見通しをもち、対処的な指導ではなく、待ち構える指導でいることが大切である。

- ◆ 2学期は、子どもの思考をさえぎる教師の発言を減らすように心がけた。その理由として、追加の指示や発問の変更などにより、子どもが混乱してしまったり、集中を欠いてしまったりすることがあるためである。

- ◆ 「隠れたカリキュラム」を意識した指導・支援に努めた。理由として、挙手した児童だけを指名して発言させることによって、挙手していない児童は「自分は発言しなくてもいい」と感じてしまうことなどがあった。そのため、話す前に書く活動を取り入れたり、ペアで話してから発言をさせたり、列指名を行ったりするなどの方法を取り入れた。

- ◆ 承認することの大切さを学びました。私は、十分に出来ていないことや遅れている児童に目がいきがちであることに気付きました。しかし、児童を承認する視点は無限にあります。やろうと努力している児童や、すでに出来ていることに意識的に目を向け承認することによって、教室の空気を温かくしていくことが出来るのだと分かりました。

- ◆一人一人の児童をよく見ることの大切さを実感しました。よく見ているからこそ、児童の様子に合わせて指導や活動を柔軟に変えることができます。さらに、危機管理意識や安全意識をもつことにもつながってきます。全員の力を伸ばし、大切な児童の命を守るためにも、常に全員を見ようとする意識が必要だと学びました。

2 ジョブシャドーイングにより感じている悩みや疑問

【学習指導】

- ◆2学期は、副担任ではない他の学年にTTとして入り、多くの児童と交流することができた。また、多くの先生方の授業を参観できたので、理科・社会の指導や高学年への対応など学ぶことがたくさんあった。しかし、自分が担当している授業とTTとして入りたい授業がいくつか重なってしまったので、3学期は自分から時間割を調整して積極的にいろいろな学級に入れるようにしていきたい。
- ◆特にありません。見て学んだことを実践し、それに対してご指導頂けるという非常に恵まれた環境で学べることに感謝しています。
指導教諭から毎日多くのことを学び、T1として授業を行うことが増えてきている指導教諭から自分では気づかないことについて指導してもらったり、共に教材研究をしたりすることで、授業力も高まっていると感じている。毎日の教材研究の時間の確保の仕方や、計画的な校務分掌の進め方について、さらに学んでいきたい。

【指導全般】

- ◆様々な学級を見てまわり、多くの先生のやり方を学ぶことも大切である。しかし、指導にはそれまでの流れや児童の実態がとても密接に関わってくる。1学級に留まって流れを確認しつつ指導のしかたを学ぶのか、他学級を参観するかバランスが難しい。
- ◆児童同士のトラブルがあった際の保護者への対応や、懇談会の様子などを見て、保護者とのかわりの難しさを感じた。自分が担任になった時に、子どもたちにどのような力を育みたいのか、そのためにどのような指導をしていくかを明確に持ち、伝えていけるよう、指導の視点を具体的に持ってシャドーイングを続ける必要があると感じている。
- ◆保護者対応
今は、副担任として学んでいるが、学級担任として何が必要でどのように対応すべきなのか、漠然としている。

- ◆ 1学期では、学校体制上他学年の授業や児童の様子をみることが難しい状況にあったが、2学期になり副担任を交換するなどの取り組みによって、さまざまな学年の児童の様子や先輩教師の授業を参観することができるようになった。3学期は、自ら時間割を調整するなどしてさまざまな学年に入り、先輩教師から学んでいきたいと考えている。
- ◆ 生徒指導や授業づくりで悩んだ際には、放課後や空いている時間を見つけてすぐに初任者指導教諭に相談し解決するようにしている。

【学級経営】

- ◆ 学級づくりの面で、実践の機会が少ないことから、来年度、学級を任されたとき、今の実践で自分が対応できるかどうか不安である。
- ◆ 担任業務の様子を教えていただく機会をつくるのが難しく、特に知識の範囲外の担任業務について把握できていない。自らの質問力を上げて、たくさん質問していく必要がある。

3 ジョブシャドーイングの成果を日常の授業づくりや学級経営等に活かすとき、重要と思われる点

- ◆ 学級会の題材や道徳の主題の設定は日常生活と密接に関連させること。
学級経営に生かすため、児童の様子を授業中のみならず、休み時間の行動等もしっかり把握しておくこと。
- ◆ 1つのことを学ぶにしても、多くの教科や領域が密接に関係していることを学ぶこと。年度初めに1年の学習の流れを見通しておき、単元をならびかえるなど、児童が学びやすい環境をつくっていくこと。
- ◆ 授業内外に関わらず児童に、今して欲しいことは何なのか、今は何をすべき時間なのか、教師は何を意図しているのかなどを具体的に、何度も伝えること。
- ◆ 指導教諭の優れた学習指導や学級経営をそのまま取り入れようとするのではなく、児童の実態や自分に合った指導の方法を見極めて応用すること。
- ◆ 児童が安心して自分の考えを述べることができる環境を、教師が意識的に作ること。
- ◆ 4月から指導教諭の授業を観察する中で、授業でいかに児童との信頼関係を築くかが重要であること。
- ◆ 毎日を記録化すること。
- ◆ 学級経営の軸になる基準を明確すること。

- ◆授業実践の積み重ねていくこと。
- ◆表面上の授業技術を真似るのではなく、先生自身の人間性や授業意図、そのような指導が生まれた背景、指導の基盤となっている考え方などを総合的に学ぶこと。
そのために、自ら進んでリフレクションの機会をとり、指導教諭に質問しに行くこと。
- ◆実践場面を指導教諭に見ていただくこと。
- ◆ジョブシャドーイングの記録を基に、今後の実践についても記録と検証、改善をしていくこと。
- ◆実践した後に、必ず反省を行うこと。
その際には、客観的に自分の授業を振り返ること。（授業を録音・録画したものを聞く、子どもの記述などを通して指示・発問が伝わっていたか振り返る など）
- ◆指導の系統性、関連性を考えること。
- ◆学年の中での系統や6年間の系統、他教科との関連などを授業に反映させていくことが大切であること。
- ◆授業を行う際には、初任者指導教諭から学んだ指導方法を実践してみること。
自らの授業技術のスキルアップにつなげるため、アドバイスを取り入れて授業を行い、授業を行った後に振り返ることを繰り返し、次の授業に生かしていくこと。
- ◆1学期に引き続き、初任者指導教諭の授業や生徒指導などから学んだこと、自分が授業を行った際の課題、初任者指導教諭から助言していただいたことを記録化していくこと。
- ◆「守・破・離」です。先生に教えて頂いたことの中から、実践してみたいと思ったことをまずは忠実に取り入れてみる。また、失敗を重ねながら少しずつ自分に合ったやり方を見つけていくこと。
- ◆リフレクションを行うことです。
どうして思うように出来なかったのか、どうすれば改善されるのか振り返ることによって、経験を価値のある学びにするため、毎回の振り返りを充実させること。
- ◆目標を達成するためにどのように学習させるかを、見通しをもって指示すること。
各教科で毎時間板書計画を作成し学習の流れを教師自身が理解し、それを単元全体で繰り返すこと。
- ◆学校行事において児童に「何のためにこの活動を行っているのか。」を考えさせ、その活動で「何を学ばせたいのか。」を指導者側でしっかりとおさえること。
そのために、児童には明確な目標を定めさせ、適宜振り返りを行っていくこと。